

平成 28 年 9 月月例記者会見

質疑応答概要

1. 発表内容について

〔電子版親子手帳サービス〕

記者 母子手帳が不要になることはないのですか？

市担当 母子手帳が無くなり、完全に電子版に切り替わるということではありません。法律上は現在の紙の母子手帳が必要となっているので無くなりません。紙の母子手帳には証明書の機能があります。出生の証明や、予防接種法に基づく予防接種を受けた時には必ず実施主体が予防接種をしたという記録を残さないといけません。そういった証明が母子手帳でないと今は認められていないのです。

記者 予防接種するとスタンプ押ししたりシール貼ったりするのは、そういうことですか？

市長 はい。公的な意味では母子手帳が必要ということです。電子版の際にはそのようなことを注意喚起しておかなければなりません。

記者 一年間に生まれる子どもの人数はどれくらいですか？

市担当 約 1,000 人です。大きくなっている子どもさんの記録を、電子版親子手帳に記録することもできるので、当初は 1,000 人以上の方がアクセスされると思っています。

記者 生駒市外の方は利用できないのですか？

市担当 生駒市外の方は、育児記録としては残すことができますが、自治体からの情報は受け取れません。個人の認証の登録時に郵便番号で登録するのですが、その郵便番号に応じてお住まいの自治体というものが設定されます。よって生駒市外の方には生駒市の情報は入らないのです。

記者 どうして、生駒市はこれを導入しようと思ったのですか？

市担当 予防接種の管理が難しいと保護者が悩んでいることが分かり、アプリで開発するというのもできるのですが、全国的なニーズがあったのか、こういうサービスが提供されていることが分かり、導入することにしました。

記者 年間予算はどれくらいですか？

市担当 年間 60 万円。

記者 他の自治体が、導入する場合も 60 万円あれば使えるということですか？

市担当 はい。

記者 これも子育てしやすいまちづくりの一環ですか？

市長 はい。

〔マタニティコンシェルジュ〕

記者 マタニティコンシェルジュは何名設置するのですか？

市担当 3 名です。

記者 3名の役職は保健師、助産師ですか？

市担当 保健師が1名、助産師が2名です。

記者 保健師や助産師の専門知識を有する者とありますが、その専門知識を有していてもコンシェルジュになれる人は限定されるのですか？ 専門知識を持っていなければならないのですか？

市長 コンシェルジュになるための研修を受けています。困っている人など非常に難しいケースに対してきちんと寄り添って話を聞き対応しなければいけないので、コミュニケーション能力や人格者で選ばれた3名になります。

記者 3名とも女性ですよ？

市担当 はい。

記者 コンシェルジュ以外の職員も従来のサポートはしますか？

市担当 従来のサポートはします。妊娠届出時はコンシェルジュに全面的に任せます。その後、家庭訪問など継続していく中で、地区担当の保健師と連携を取っていきます。

記者 市の職員ですか？

市担当 嘱託です。

記者 マタニティコンシェルジュの設置は県内初ですか？

市担当 すでに導入されていますが、内容としては県内ではトップレベルかと思っています。きちんとしたケアプランを作成しているところは少ないのです。

記者 母親はケアプランをどのように活用するのですか？

市担当 ケアプランで、月齢の成長の様子や注意事項をひとつずつ丁寧に案内します。それに加えて、電子版親子手帳でも合わせて情報を配信します。

記者 自分の体の状態を把握するという意味もあるのですか？

市担当 そうです。ほかにも妊娠届の時にコンシェルジュが訪問する時期の約束や、先々の見通しがつけられるような計画として使ってもらえます。

記者 ケアプランに基づいてマタニティコンシェルジュが訪問するのですか？

市担当 いいえ。訪問は地区担当の保健師が行います。

【図書館とまちづくりワークショップ】

記者 方向性や何がやりたいとかなどの意見はでているのですか？

市長 まだ意見は出ていません。

記者 募集する段階で、何がやりたいかという意見が添えられているわけではないのですか？

市担当 関心がある事を書いていただきました。

記者 3回でどこまで決まるのですか？

市担当 ワークショップなので、参加者にお任せしますが、2回目でいろいろなアイデアを出してもらい、3回目で具体的な内容にできればと思っています。

記者 展開について予定はありますか？

市長 方向性としては、図書館は本を読むだけでなく、まちづくりと連携するなど、市民がもっと活躍できるような、人と人をつなぐ図書館として多様な意見をいただくためのワークショップです。

2. その他

〔高山第2工区〕

記者 学研第二工区の懇談会は、全く隠す必要のない意見だと思いますが、公開は考えないのですか？

市長 議事録できちんと出しています。議論の中には個別の具体的な話も出てくることもあり、メンバーだけでといった意向も聞いているので、引き続きそうします。

記者 委員からの要望もあって、そういう結論になったということですよね？

市長 それも含めて市として判断しました。

記者 公開しないと、何か隠しているのではないかと捉えられかねないのです。今からでも遅くはないので、基本は公開にして部分的に非公開にしてもいいのではないのでしょうか？

市長 メンバーが闊達に議論する会議なので、部分を公開、非公開というのはなかなか難しいかと思えます。

記者 その懇談会は何かを決定する場ではありませんよね？ 自由に意見を述べる場で、何か責任を負うものではないので、いろいろな意見があることをもっと市民に聞いてもらえばいいと思います。

市長 意思決定でなくても、それが影響を与える心配もあります。

記者 今話題の豊洲市場の話言えば、やっぱり隠している行政に対する目は厳しいので、何か問題が起きた時に隠しているからじゃないかとて逆に思われるからもったいない。生駒の持っているブランドとかももったいないと思います。

市長 苦しいところですが、出来る限りのことはしっかり公表していきます。

〔熱中症事故〕

記者 議会の委員会で熱中症について、市長が市立病院の対応については調査しないと言いました。最初から決めてしまうのはいかがなものかと思えます。熱中症事故で亡くなってしまったので、倒れた後にどのように搬送して対応したかは非常に重要だと思います。それを最初から調査しないとはいかがなものかと思ったのですが？

市長 医療行為というものに踏み込んで、どう処置をしたからどうなったとかいった話は言える話でもないし、個人情報も含めた医療行為の細かい情報をその場に提供が出来るかどうかとか、そもそも医療というものを考えた時にそういうことをすべきかどうかということも含めて、今の段階で生駒市教育委員会が設置するような第三者委員会ですべきものではないと考えています。

〔生駒山麓公園の指定管理〕

記者 知事から文書が届いたそうですが、作って処理しきれない分は、今は一つも外部に出していないと思えますが、それは批判の高まりを受けてのことでしょうか？

市長 注目を浴びるのでということではなくて、外部にピザなどが8割9割出していたことが都市公園法の趣旨からして適切ではないということです。しっかりと都市公園法の趣旨に沿ってやっていきたいと思えます。

記者 新しく計画を練り直しているのですか？ いつごろ目途が立ちますか？

市長 作業はやっています。障がいをお持ちの方の仕事なので、指定管理者とも相談しながら、なるべく早めにやっていきたいとは思っています。